

本音の コラム



かまた さとし
鎌田 慧

二十日の日曜日。松江
市でひらかれた「さよな
ら島根原発！大集会」

に、講師の神田香織さ
んと参加した。さすがに
広い「くにびきメッセ大
展示場」も、四千人以上
の人波で超満員だった。

島根原発第1号機は運
転経歴四十年の老朽炉、
それも福島で過酷事故を
起こしたマークI型。あ
らたな活断層も発見され
ている。3号機建設は終
わったが、稼働させて放
射能まみれにするよりは
解体した方が安全だし、
事故や廃炉費用を考えれ
ばコストは安くつく。

そもそも、県庁と十キ
も離れていない原発な
ど、世界的にも例がない。
三十キ圏内に四十七万人

も生活しているのだ。

青森県の大間原発から
同じ三十キ圏内にある函
館市が、住民のいのちと
財産を守るのが自治体の
責務として、建設差し止
め裁判を起こした。

それを思えば、十キ圏
内にいる島根県知事や松
江市長が、再稼働に異議
を申し立てていないこと
はとても奇異に映る。

傲慢さ ぬ知られ 恐れ

五月の福井地裁「大飯
原発差し止め判決」は
「多数の人の生存そのも
のに関わる権利と電気代
の高い低いという問題を
並べて論じるような議論
に加わり、議論の可否を
判断すること自体、法的
に許されない」と断じた。
人間ばかりか、生きて
し生けるものすべてをフ
クシマは破滅の危機に曝
している。それでもまだ
原発再稼働で、利益を貪
ろつとするのは冒瀆であ
る。(ルポライター)